

# 独立行政法人国立博物館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

## 全体評価

### ①評価を通じて得られた法人の今後の課題

- (イ)平成13年の独立行政法人化以来、常設展の内容の充実・向上は大いに評価でき、収集保管・調査研究などについてもおおむね初期の目的を達成しているといえる。組織改革については、一応の完成をみたが職員の意識改革や積極的・自発的な経営のダイナミックな変換はまだ不十分であり、国際交流・教育普及などでも課題が多いといえる。平成18年度からは第二期中期目標計画期間がはじまったので、引き続き努力を継続する方法や、危機管理及び目的積立金等の問題点をも課題として、法人全体で取り組んでほしい。(項目別評価p1・3参照)
- (ロ)館長の様々な場での「思い」(財政問題についてはあまりふれず、博物館のあるべき姿勢)のアピールが、いずれ世の中を動かす力となると考える。やはり法人全体としての理念提示、および具体化の方針の策定がまだ不明確といえるのではないだろうか。
- (ハ)本中期期間中に達成した九州国立博物館については、組織運営や企画内容など、博物館の立派な「サクセスストーリー」として評価したい。法人全体に言えることだが、大量動員展後の中長期的な展覧会計画が必要であるが、日頃の調査研究が展示に反映するものであることに留意し、さらに充実を図るべきである。

### ②法人経営に関する意見

- (イ)現場レベルでの努力による成果は上がったと言えるが、経営レベルでの達成すべきビジョン・目的の形成とそれを実現する方策を検討し、さらなるトップマネジメントが必要であるが、観覧者である国民や各館で働く職員の側に視線を向けたものでなくてはならない。
- (ロ)独立行政法人制度が発足して5年が経過したが、制度自体が様々な法人に一律に適用されるものであり、独特な機関の良さが機能せず曖昧な手続きだけが蓄積されている現状は問題が多い。目的積立金制度については、今後も法人が経営インセンティブを失うことがないよう、他法人・主務省とも連携して対応していくことが必要である。
- (ハ)第二期中期目標計画期間に入って、すぐさま入館料の値上げは時期尚早であるといわざるを得ない。「増収」対策は展覧会入館者数＝収入となりかねない。「国立」博物館という性格から、経営効率に加えて未来の日本の文化・芸術を育成するためのマネジメントを期待する。

### ③特記事項(中期目標期間終了時の見直し作業、総務省からの指摘についての対応等)

- (イ)平成19年4月の独立行政法人文化財研究所との統合を踏まえ、国立博物館において法人全体の組織・業務内容・調査研究・修理修復などの「役割分担」人員再配置・業務見直しなど早急に着手するとともに、文化財研究所で蓄積された資料に関しても十分に協議していく必要がある。
- (ロ)研究機関としての未成熟性が総務省からの指摘のポイントであるが、研究成果の発表や蓄積の方法に問題があると考えられる。学会との交流、法人内の研究支援システム、研究審査制度の確立など改善すべきである。(項目別評価p6・7参照)
- (ハ)より高い質と安いコストでの公共サービスの提供を求め、公共サービスの民間委譲の必要性が指摘される中、導入できる業務とできない業務及びその内容について具体的なシミュレーションを行う必要がある。

# 独立行政法人国立博物館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

## 項目別評価総表 東京国立博物館

項目名【3年度】	項目名【4～15年度】	項目名【6～17年度】	中期目標期間中の評価の経年変化					
			13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)効率化の状況			B	B	A	A	B	
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	B	B	
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A	A	
(小項目名)寄託件数(東博は寄贈も含む)			B	B	A	A	A	
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A	A	
(小項目名)保存カルテ作成件数			B	A	A	A	A	
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A	A	
(小項目名)文化財修理等のデータベース化件数			B	A	A	A	A	
(小項目名)修理件数(寄託品を含む)			A	A	A	A	A	
(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	A	A	A	A	A	
	(小項目名)総入館者数	(小項目名)総入館者数		A	A	A	A	
(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	A	A	A	A	A	
(小項目名)常設展入館者数	(小項目名)陳列替数	(小項目名)陳列替数	A	A	A	A	A	
	(小項目名)陳列件数	(小項目名)陳列件数		A	A	A	A	
(中項目名)特別展等	(中項目名)特別展等	(中項目名)特別展等	A	A	A	A	A	
展覧会ごとの評価	展覧会ごとの評価	全体で評価	A	A	A			
			B	A	A			
			A	A	A			
			A	A	A			
			-	A	A			
				A	A			
(小項目名)特別展等入館者数			A	A	A	A	A	
展覧会ごとの評価			A	B	A	A	A	
			B	A	A	A	A	
			A	A	A	A	A	
			A	A	A	-	A	
				A	A		-	
				A	A		-	
				A	B			
(中項目名)海外交流展	(中項目名)地方巡回展	(小項目名)地方巡回展 入館者数		A	B			
	(小項目名)地方巡回展 入館者数	(小項目名)地方巡回展 入館者数		A	B		A	
(中項目名)海外交流展	(中項目名)海外交流展		A		A			

展覧会ごとの評価	展覧会ごとの評価		B		A				
	(中項目名)帰国展							A	
	(小項目名)海外交流 展入館者数								-
	展覧会ごとの評価 (小項目名)帰国展 入館者数								-
(中項目名)貸与 特別観覧の状況			A	A	B	A	A		
(小項目名)貸与件数			A	A	B	A	A		
(小項目名)特別観覧の件数			A	A	A	A	C		
(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	A	A	A	A	A		
(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	A	A	A	A	A		
	(小項目名)研究誌(MUSEUM発行)	(小項目名)研究誌(MUSEUM発行)							
	(小項目名)研究員派遣	(小項目名)研究員派遣							
	(小項目名)海外研究者 招聘人数	(小項目名)海外研究者招聘人数							
		(小項目名)外国人研究員 研修生受入				A	B		
(中項目名)資料の収集及び公開(観覧)の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A	A		
(中項目名)広報活動の状況			A						
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A						
(小項目名)出版件数	(小項目名)出版件数	(小項目名)出版件数	A	A	A	A	A		
	(小項目名)情報及び資料の収集	(小項目名)情報及び資料の収集		A	A	A	A		
(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(画像)	(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(画像)	(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(画像)	A	A	A	C	A		
(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(文字)	(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(文字)	(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数(文字)	A	A	A	C	A		
(小項目名)ホームページのアクセス件数			A	A	A	A	A		
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	A	A	A	A	A		
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A						
(中項目名)友の会の活動状況			B						
(小項目名)児童生徒を対象とした事業等の参加者数	(小項目名)こどもミュージアム、ワークショップ等	(小項目名)こどもミュージアム、ワークショップ等	A	A	A	A	A		
	(小項目名)子供向け美術鑑賞講座	(小項目名)子供向け美術鑑賞講座		A	A	B	A		
	(小項目名)子供向け美術体験学習	(小項目名)子供向け美術体験学習		A	A	A	A		
(小項目名)月例講演会 回数			A	A	A	A	A		
(小項目名)記念講演 回数			A	A	A	A	A		
(小項目名)夏期講座 回数			A	B	B	B	A		
(小項目名)列品解説 回数			A	A	A	A	A		
	(小項目名)公開講座 回数	(小項目名)公開講座 回数							
	(小項目名)友の会会員中心の講演会								
(小項目名)月例講演会 参加者数			A	A	A	A	A		
(小項目名)記念講演 参加者数			A	A	A	A	B		
(小項目名)夏期講座 参加者数			C	B	C	C	A		

(小項目名)列品解説 参加者数			A	A	A	A	A	
(小項目名)講演会等に対するアンケート結果	(小項目名)月例講演会等 アンケート	(小項目名)月例講演会等 アンケート	A	B	A	A	A	
	(小項目名)記念講演会 アンケート	(小項目名)記念講演会 アンケート		B	B	B	A	
	(小項目名)夏期講座 アンケート	(小項目名)夏期講座 アンケート		B	B	B	A	
	(小項目名)公開講座 アンケート	(小項目名)公開講座 アンケート		B	A	A	A	
(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	B	A	A	A	A	
(中項目名)ボランティアの活用状況			A					
(中項目名)大学等との連携の状況			A					
(小項目名)ボランティア受入人数	(小項目名)ボランティア受入人数	(小項目名)ボランティア受入人数	A	A	A	A	A	
(小項目名)学芸担当職員の受入人数			B					A
(小項目名)大学生等の受入人数			A					A
(中項目名)渉外活動の状況			B	A	A	A	B	
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	A	A	

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

# 独立行政法人国立博物館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

## 項目別総表 京都国立博物館】

項目名【3年度】	項目名【4～15年度】	項目名【6～17年度】	中期目標期間中の評価の経年変化						
			13年度	14年度	15年度	16年度	17年度		
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置									
(中項目名)効率化の状況			B	B	A	B	B	B	
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	B	B	B	
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置									
(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A	A	A	
(小項目名)寄託件数			A	A	A	A	A	A	
(中項目名)保管の状況			A	A	A	A	A	A	
	(小項目名)保存カルテの作成件数				A	A	B		
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A	A	A	
(小項目名)文化財修理等のデータベース化件数			B	A	A	A	A	A	
(小項目名)修理件数(寄託品を含む)			A	A	A	A	A	A	
(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	A	A	A	B	A		
	(小項目名)総入館者数	(小項目名)総入館者数		A	A	B	A		
(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	A	A	A	A	A		
(小項目名)常設展入館者数	(小項目名)陳列替数	(小項目名)陳列替数	B	A	A	A	A		
	(小項目名)陳列件数	(小項目名)陳列件数		A	A	A	A		
(中項目名)特別展等展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等展覧会ごとの評価	(中項目名)特別展等全体で評価	B B A	A A A	A A A B	A	A		
(小項目名)特別展等入館者数展覧会ごとの評価			B C A	A A A	A A A A	A A B	B A A	-	
(中項目名)地方巡回展			A	A		A			
(小項目名)地方巡回展入館者数			A	B		A			
(中項目名)海外交流展展覧会ごとの評価			A A	A					
(中項目名)貸与 特別観覧の状況			A	A	A	A	A		
(小項目名)貸与件数			A	A	A	A	A		
(小項目名)特別観覧の件数			A	A	A	A	A		
(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	A	A	A	A	A		
(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	A	A	A	A	A		
	(小項目名)海外研究者	(小項目名)海外研究者招聘人数			C	A	A		
	(小項目名)研究員派遣	(小項目名)研究員派遣			A	A	A		

(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A				
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況			A				
(小項目名)博物館だより出版件数	(小項目名)博物館だより出版件数	(小項目名)博物館だより出版件数	A	A	A	A	A
	(小項目名)情報及び資料の収集	(小項目名)情報及び資料の収集			B	A	A
(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数			A	A	A	A	A
(小項目名)ホームページのアクセス件数			A	A	A	A	A
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	A	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A				
(中項目名)友の会の活動状況			B				
(小項目名)児童生徒を対象とした事業等の参加者数	(小項目名)小学生向け作品解説シート	(小項目)小学生向け作品解説シート	A	A	A	A	A
		(小項目)博物館ディクショナリー					
(小項目名)土曜講座 回数			A	A	A	A	B
(小項目名)夏期講座 回数			A	A	A	A	A
(小項目名)土曜講座 参加者数			A	A	A	A	A
(小項目名)夏期講座 参加者数			B	B	A	A	A
(小項目名)講演会等 アンケート	(小項目名)土曜講座 アンケート	(小項目名)土曜講座 アンケート	A	B	A	A	A
	(小項目名)夏期講座 アンケート	(小項目名)夏期講座 アンケート		B	A	A	A
(中項目名)研修の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	B	A	A	A	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			A				
(中項目名)大学等との連携の状況			A				
(小項目名)ボランティア受入件数			A	A	A	A	A
(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)博物館実習	A	A	B	A	
		(小項目名)京都大学大学院人間 環境学研究所				A	
(中項目名)渉外活動の状況			B	B	B	A	B
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	B	A	A

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

# 独立行政法人国立博物館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

## 項目別総表 奈良国立博物館

項目名【3年度】	項目名【4～15年度】	項目名【6～17年度】	中期目標期間中の評価の経年変化					
			13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	
(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)効率化の状況			B	B	A	A	B	
(小項目名)効率化の達成率			B	B	B	B	B	
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置								
(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況			A	A	A	A	A	
(小項目名)寄託件数			A	A	A	A	A	
(中項目名)保管の状況	(中項目名)保管の状況	(中項目名)保管の状況	A	A	A	A	A	
(小項目名)調査点検件数	(小項目名)保存カルテの作成件数	(小項目名)保存カルテの作成件数	B	A	A	A	A	
(中項目名)修理の状況			A	A	A	A	A	
(小項目名)修理件数(寄託品を含む)			A	A	A	A	A	
(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	(中項目名)展覧会の状況	A	A	A	A	A	
	(小項目名)総入館者数	(小項目名)総入館者数		A	A	A	A	
(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	(中項目名)常設展	A	A	A	A	A	
(小項目名)常設展 入館者数	(小項目名)陳列替数	(小項目名)陳列替数	A	B	A	A	A	
	(小項目名)陳列件数	(小項目名)陳列件数		A	A	A	A	
(中項目名)特別展等 * 展覧会ごとに評価	(中項目名)特別展等 * 展覧会ごとに評価	(中項目名)特別展等 * 全体的に評価	A A	A A A	A A A	A	A	
(小項目名)特別展 入館者数 * 展覧会ごとに評価			C A	A B A	A A A	A B A -	A A A A	
(中項目名)地方巡回展			B					
(小項目名)地方巡回展 入館者数			B				A	
	(中項目名)海外交流展	(中項目名)海外交流展			A	-		
	(小項目名)海外巡回展 入館者数	(小項目名)海外巡回展 入館者数			A	-		
(中項目名)貸与 特別観覧の状況			A	A	A	A	A	
(小項目名)貸与件数			A	A	A	B	A	
(小項目名)特別観覧の件数			A	A	A	A	A	
(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	(中項目名)調査研究の実施状況	A	A	A	A	A	
(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	(小項目名)客員研究員招聘人数	A	A	A	A	A	
	(小項目名)研究員派遣	(小項目名)研究員派遣		A	A	A	A	
	(小項目名)海外研究者招聘人数	(小項目名)海外研究者招聘人数			B	A	A	

(中項目名)資料の収集及び公開(閲覧)の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況	A	A	A	A	A
(中項目名)広報活動の状況			A				
(中項目名)収蔵品の情報デジタル化及びその活用状況		(小項目名)情報及び資料の収集	A				A
(小項目名)博物館だより出版件数			A	A	A	A	A
(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数			A	A	A	A	B
(小項目名)ホームページのアクセス件数			A	A	A	A	A
(中項目名)講演会等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	(中項目名)講座 講演会等の実施状況	A	A	A	A	A
(中項目名)児童生徒を対象とした講座等の実施状況			A				
(中項目名)友の会の活動状況			B				
(小項目名)児童生徒を対象とした事業等の参加者数	(小項目名)瀬と子の文化財教室		A	A	B	C	C
(小項目名)講座 回数	(小項目名)特別展等講座 回数	(小項目名)特別展等講座 回数	A	A	A	A	A
(小項目名)夏期講座 回数			B	A	A	A	A
(小項目名)ギャラリートーク 回数			A	A	A	A	A
	(小項目名)友の会会員中心の講演会			A	A		
(小項目名)講座 参加者数	(小項目名)特別展等講座 参加者数	(小項目名)特別展等講座 参加者数	A	A	A	A	A
(小項目名)夏期講座 参加者数	(小項目名)夏期講座 参加者数	(小項目名)夏期講座 参加者数	B	B	A	A	A
(小項目名)ギャラリートーク 参加者数	(小項目名)ギャラリートーク 参加者数	(小項目名)ギャラリートーク 参加者数	A	A	A	A	A
(小項目名)講演会等 アンケート	(小項目名)特別展等講座 アンケート	(小項目名)特別展等講座 アンケート	A	A	A	C	A
	(小項目名)夏期講座 アンケート	(小項目名)夏期講座 アンケート		A	A	A	A
(中項目名)研修の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	(中項目名)研修等の取組状況	B	A	A	A	A
(中項目名)ボランティアの活用状況			A				
(中項目名)大学等との連携の状況			A				
(小項目名)ボランティア受入件数		(小項目名)ボランティアに対する研修	B	A	A	A	A
		(小項目名)大学生等の受入人数				A	A
(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)大学生等の受入人数	(小項目名)大学生等の受入人数	B	B	A	A	A
	(小項目名)放送大学の面接授業回数	(小項目名)放送大学の面接授業回数		A	A	A	A
	(小項目名)放送大学の面接授業人数	(小項目名)放送大学の面接授業人数		A	A	A	A
	(小項目名)奈良女子大学との連携講座(大学院生)	(小項目名)奈良女子大学との連携講座(大学院生)		A	A	A	
		(小項目名)博物館実習				A	B
(中項目名)渉外活動の状況			B	A	B	A	B
(中項目名)その他の入館者サービス			A	A	A	A	A

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。



# 独立行政法人国立博物館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

## 項目別総表【九州国立博物館】

項目名【3～16年度】	項目名【7年度】	中期目標期間中の評価の経年変化				
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
	(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置					
	(中項目名)効率化の状況					B
	(小項目名)効率化の達成率					B
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置						
	(中項目名)文化財の収集(購入・寄贈・寄託)の状況					A
	(小項目名)寄託件数					A
	(中項目名)保管の状況					A
	(小項目名)保存カルテの作成件数					A
	(中項目名)修理の状況					A
	(小項目名)修理件数(緊急性の高いもの)					A
	(小項目名)修理件数(被災文化財)					A
	(中項目名)展覧会の状況					A
	(小項目名)総入館者数					A
	(中項目名)常設展					A
	(小項目名)陳列替数					A
	(小項目名)陳列件数					A
	(中項目名)特別展等					A
	* 全体的に評価					
	(小項目名)特別展 入館者数					A
	* 展覧会ごとに評価					-
	(中項目名)調査研究の実施状況					A
	(小項目名)客員研究員招聘人数					A
	(小項目名)研究員派遣					A
	(小項目名)海外研究者招聘人数					A
	(中項目名)博物館に関する情報の収集及び公開の状況					A
	(小項目名)情報及び資料の収集					A
	(小項目名)収蔵品等のデジタル化件数					A
	(中項目名)講座・講演会等の実施状況					A
	(小項目名)開館記念講演及びシンポジウム 回数					-
	(小項目名)開館記念講演及びシンポジウム 人数					-
	(小項目名)特別展記念講演会 回数					-
	(小項目名)特別展記念講演会 人数					-
	(小項目名)特別展連絡講座 回数					-
	(小項目名)特別展連絡講座 人数					-
	(小項目名)特別展連絡講座 アンケート					-
	(小項目名)ミュージアム講座 回数					-
	(小項目名)ミュージアム講座 人数					-
	(小項目名)ミュージアム講座 アンケート					-
	(小項目名)ミュージアムトーク 回数					-

	(小項目名)ミュージアムトーク 人数					-
	(中項目名)研修等の取組状況					A
	(小項目名)インターンシップ					A
	(中項目名)渉外活動の状況					A
(中項目名)九州国立博物館(仮称)開館への準備状況		A	A	A	A	
	(中項目名)その他の入館者サービス					A

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較（過去5年分を記載）

（単位：百万円）

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
収入						支出					
運営費交付金	4,612	4,688	5,128	5,955	6,622	運営事業費	4,717	5,083	5,346	7,180	9,158
施設整備費補助金	184	308	39	2,159	312	人件費	1,988	2,154	2,181	2,345	2,257
展示事業収入	698	939	917	995	1,339	業務経費	2,729	2,929	3,165	4,835	6,901
その他寄附金等	30	50	41	51	51	一般管理費	484	403	628	664	1,001
						展覧事業費	1,813	1,932	1,714	2,581	4,744
						調査研究事業費	386	372	407	573	1,039
						教育普及事業費	34	52	84	114	117
						九州国立博物館（仮称）設立等準備事業費	12	170	332	903	0
						施設整備費	184	308	39	2,158	808
計	5,524	5,985	6,125	9,160	8,324	計	4,901	5,391	5,385	9,338	9,966

（単位：百万円）

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
費用						収益					
経常経費	4,095	4,399	4,776	5,709	6,579	運営費交付金収益	3,331	3,684	4,001	4,166	4,716
人件費	2,020	2,189	2,236	2,389	2,307	展示事業等の収入	665	898	917	1,062	1,488
業務経費	2,075	2,210	2,540	3,320	4,272	寄付金収益	115	53	41	48	43
一般管理費	538	498	580	563	957	資産見返負債戻入	112	122	122	138	239
展覧事業費	1,019	1,022	1,154	1,480	2,158	臨時利益	0	33	0	0	140
調査研究事業費	364	383	399	532	800						
教育普及事業費	31	53	85	101	109						
九州国立博物館（仮称）設立等準備事業費	11	132	201	507	0						
減価償却費	112	122	121	137	248						
臨時損失	0	46	12	0	27						
計	4,095	4,445	4,788	5,709	6,606	計	4,223	4,790	5,081	5,414	6,626
						純利益	128	345	293	-295	20
						目的積立金取崩額	0	0	21	295	-104
						総利益	128	345	314	0	-84

（単位：百万円）

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	3,411	4,084	4,626	5,086	6,843	業務活動による収入	5,396	5,761	6,144	7,042	8,141
投資活動による支出	1,043	1,782	1,249	2,312	4,034	運営費交付金による収入	4,612	4,688	5,128	5,955	6,622
財務活動による支出	0	0	0	0	13	展示事業等による収入	784	1,073	1,016	1,087	1,519
翌年度への繰越金	1,126	2,947	3,267	3,789	2,671	投資活動による収入	184	432	0	878	1,631
						施設費による収入	184	432	0	878	1,631
						財務活動による収入	0	1,494	51	0	0
						前年度よりの繰越金	0	1,126	2,947	3,267	3,789
計	5,580	8,813	9,142	11,187	13,561	計	5,580	8,813	9,142	11,187	13,561

【参考資料2】貸借対照表の経年比較 (過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
資産						負債					
流動資産	2,680	3,045	3,370	5,221	2,851	流動負債	1,102	1,030	1,570	3,935	2,527
固定資産	147,453	153,955	153,954	169,662	172,454	固定負債	656	845	867	1,213	2,300
						負債合計	1,758	1,875	2,437	5,148	4,827
						資本					
						資本金	71,563	72,692	72,692	86,247	86,247
						資本剰余金	76,684	81,960	81,445	83,301	84,210
						利益剰余金	128	473	750	187	21
						(うち当期末処分利益)	128	345	314	0	-84
						資本合計	148,375	155,125	154,887	169,735	170,478
資産合計	150,133	157,000	157,324	174,883	175,305	負債資本合計	150,133	157,000	157,324	174,883	175,305

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較 (過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
当期末処分利益					
当期総利益	128	345	314	0	-84
前期繰越欠損金	0	0	0	0	0
利益処分額					
積立金	0	4	101	0	-84
独立行政法人通則法第44条第3項によ					
主務大臣の承認を受けた額	128	341	213	0	0
業務拡充積立金	79	247	213	0	0
施設改修積立金	49	94	0	0	0

【参考資料4】人員の増減の経年比較 (過去5年分を記載)

(単位:人)

職種	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
定年制研究職員	85	87	92	97	94
任期制研究系職員	0	0	0	1	1
再任用研究系職員	0	0	1	0	0
定年制事務職員	82	88	88	91	93
任期制事務職員	0	0	0	0	0
再任用事務職員	0	0	0	0	1
定年制技能・労務職員	40	40	38	34	30
任期制技能・労務職員	0	0	0	0	0
再任用技能・労務職員	0	0	0	0	0
指定職相当職員	0	1	1	1	2

## 独立行政法人国立博物館の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

### 項目別評価

中期計画の各項目ごとに段階的評価を行う。

#### 段階的評価

- 「A」：中期目標を十分に達成し、着実に成果を上げた。
- 「B」：中期目標をほぼ達成し、概ね成果を上げた。
- 「C」：中期目標は十分に達成されず、業務の改善が必要。
- 「-」：評価しない。

#### 定性的評価

評価を出すに至って背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性を記述する。

### 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評 定 基 準				評 定	
						段階的評価	定 性 的 評 定
						各館別	法 人 全 体
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1) 各博物館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務のOA化の推進</p> <p>(6) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	効率化の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。(A～C)				効率化に向けた努力が重ねられ、相応の成果をあげているが、職員の意識改革の点などで、いまだ民間レベルには達していない。入館者の増加によるエネルギー使用・廃棄物の増加は避けられないため、博物館本来の業務に支障をきたさない範囲で、より一層の努力が望まれるところである。 <b>【より良い事業とするための意見等】</b> 効率的な予算配分はどのように行うべきか、長期的視野に立って、試算を行う必要がある。客観的な外部調査を入れるなど、現状を正確に把握し、公表を行うなど多方面からの理解を得ることも必要である。能動的な組織作りと経営が求められるなか、ダイナミックな意識改革のため、本部において経営問題や顧客サービスの研修等を行ってはどうか。	
	東京国立博物館	B					
	京都国立博物館	B					
	奈良国立博物館	B					
	九州国立博物館	B					
	効率化の達成率	A	B	C	実績		
	東京国立博物館	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	1.0%	B	
	京都国立博物館	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	1.0%	B	
奈良国立博物館	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	1.0%	B		
九州国立博物館	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	1.0%	B		

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準				評 定	
						段階的評価	定性的評価
						各館	法人全体
<p><b>1 収集・保管</b></p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p><b>(東京国立博物館)</b> 日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術及び考古資料等を収集する。</p> <p><b>(京都国立博物館)</b> 京都文化を中心とした美術及び考古資料等を収集する。</p> <p><b>(奈良国立博物館)</b> 仏教美術を中心とした名品を収集する。</p> <p><b>(九州国立博物館)</b> 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>	美術作品の（購入・寄贈・寄託）の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)				<p>各館とも、国立博物館にふさわしい充実したコレクションであり、着実に成果をあげている。また、系統的な収集に進展があったと言える。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後は、各館それぞれの魅力が際立つような収集方針を貫いてほしい。そのため所蔵品の管理換えなどを、館同士でより積極的に行う必要がある。</p>	
	東京国立博物館	A	<p>各館とも、国立博物館にふさわしい充実したコレクションであり、着実に成果をあげている。また、系統的な収集に進展があったと言える。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後は、各館それぞれの魅力が際立つような収集方針を貫いてほしい。そのため所蔵品の管理換えなどを、館同士でより積極的に行う必要がある。</p>				
	京都国立博物館	A					
	奈良国立博物館	A					
	九州国立博物館	A					
	寄託件数	A		B	C	実績	
	東京国立博物館	2,400件以上	1,680件以上 2,400件未満	1,680件未満	2,718件	A	
	京都国立博物館	6,000件以上	4,200件以上 6,000件未満	4,200件未満	6,197件	A	
	奈良国立博物館	1,920件以上	1,344件以上 1,920件未満	1,344件未	1,951件	A	
	九州国立博物館	100件以上	70件以上 100件未満	70件未満	404件	A	
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 収蔵品の保存カルテ作成、保存環境の調査等を実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p>	保管の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)				<p>各館における工夫や努力により、中期計画に従って成果をあげたものと認められる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>京都国立博物館においては、老朽化した展示室や仮施設という厳しい状況のもとであるが、更なる整備・充実が望まれる。</p>	
	東京国立博物館	A	<p>各館における工夫や努力により、中期計画に従って成果をあげたものと認められる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>京都国立博物館においては、老朽化した展示室や仮施設という厳しい状況のもとであるが、更なる整備・充実が望まれる。</p>				
	京都国立博物館	A					
	奈良国立博物館	A					
	九州国立博物館	A					
	保存カルテ作成件数	A		B	C	実績	
	東京国立博物館	500件以上	350件以上500件未満	350件未満	2,023件	A	
	京都国立博物館	100件以上	70件以上100件未満	70件未満	91件	B	
	奈良国立博物館	100件以上	70件以上100件未満	70件未満	104件	A	
	九州国立博物館	100件以上	70件以上100件未満	70件未満	500件	A	

<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。</p> <p>1 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。</p> <p>2 長期寄託品等の修理を実施する。</p> <p>3 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>4 文化財修理・保存処理関係のデータベース化とその公開を実施。</p> <p>(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実寄与する。</p>	修理の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)				<p>緊急性の高いものから着実に修理され、成果があがっていると言える。また緊急度の判断等を含め、努力を評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>緊急性を要するなかで、より良い成果をあげるためには、スケジュール管理も必要である。体制が整ってきたとはいえ、修理・保存処理関係のデータベース化・保存カルテの作成とその公開には、更なる努力が必要である。</p>	
	東京国立博物館						A
	京都国立博物館						A
	奈良国立博物館						A
	九州国立博物館						A
	文化財修理等のデータベース化	A	B	C	実績		
	東京国立博物館	97件以上	68件以上97件未満	68件未満	136件	A	
	京都国立博物館	250件以上	175件以上250件未満	175件未満	2,183件	A	
	修理件数	A	B	C	実績		
	東京国立博物館	100件以上	70件以上100件未満	70件未満	117件	A	
京都国立博物館	10件以上	7件以上10件未満	7件未満	16件	A		
奈良国立博物館	6件以上	4件以上8件未満	4件未満	8件	A		
九州国立博物館 (緊急性の高いもの)	10件以上	7件以上10件未満	7件未満	19件	A		
九州国立博物館 (被災文化財)	10件以上	7件以上10件未満	7件未満	12件	A		
2 公衆への観覧	展覧会の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)				<p>常設展における創意工夫と努力に、特別展の優れた企画が合致して、大量の入館者があったことは評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>各館の展覧会企画内容と努力に多くの人が目を向ける仕組ができないものか。日頃の研究成果や収支バランスを考慮し、法人全体で中長期的な企画調整や協議を行う必要がある。</p> <p>また、共催展の新たなルール作りも必要な時期となっている。</p>	
(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ各館において魅力ある質の高い常設展・特別展等を実施する。	東京国立博物館						A
(1)-2 常設展においては、東京・京都・奈良・九州の国立博物館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の文化や歴史の理解の促進に寄与する展示を実施する。	京都国立博物館						A
(1)-3 特別展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の博物館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。	奈良国立博物館						A
(東京国立博物館) 年3～5回程度	九州国立博物館						A
(京都国立博物館) 年2～3回程度	総入館者数	A	B	C	実績		
(奈良国立博物館)	東京国立博物館	790,000人以上	553,000人以上 790,000人未満	553,000人未満	1,443,719人		A
	京都国立博物館	309,000人以上	216,300人以上 309,000人未満	216,300人未満	331,605人		A
	奈良国立博物館	290,000人以上	203,000人以上 290,000人未満	203,000人未満	444,712人		A

年2～3回程度  
**(九州国立博物館)**  
 年2回程度

(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。

(1)-5 海外交流展については、海外の博物館等と連携を図りながら、国内外の優れた文化財を広く国民に観覧する機会を提供するとともに、日本の文化を海外に紹介し、日本への理解の増進に資する展覧会を実施する。(年1回程度)

(1)-6 各館の連携による共同企画展等の実施について検討し推進する。

(1)-7 収蔵品の効果的活用、地方における観覧機会の充実を図る観点から、全国の公立博物館等と共催で、地方巡回展を実施する。(年1～2か所程度)  
 なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。

(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

九州国立博物館	170,000人以上	119,000人以上 170,000人未満	119,000人未満	895,098人	A	
常設展	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)					各館とも中期計画に基づき、特集陳列・特別公開を含めた展示替えに努力が見られ、高く評価できる。その成果が、常設展観覧者の増加となっている。 <b>【より良い事業とするための意見等】</b> 各館ともレベルの高い展覧会を実施したにもかかわらず、特別展と比較すると入館者は少ない。広報戦略に一層積極的に取り組むことにより、効果があがるものと思われる。
東京国立博物館				A		
京都国立博物館				A		
奈良国立博物館				A		
九州国立博物館				A		
陳列替回数	A	B	C	実績		
東京国立博物館	180回以上	126回以上180回未満	126回未満	320回	A	
京都国立博物館	50回以上	35回以上50回未満	35回未満	67回	A	
奈良国立博物館	19回以上	13回以上19回未満	13回未満	22回	A	
九州国立博物館	67回以上	47回以上67回未満	47回未満	84回	A	
陳列総件数	A	B	C	実績		
東京国立博物館	8,000件以上	5,600件以上 8,000件未満	5,600件未満	10,433件	A	
京都国立博物館	2,000件以上	1,400件以上 2,000件未満	1,400件未満	2,037件	A	
奈良国立博物館	600件以上	420件以上 600件未満	420件未満	895件	A	
九州国立博物館	1,200件以上	840件以上 1,200件未満	840件未満	1,200件	A	
特別展等	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)					特別展については、入館者数が示す通りきわめて優れた成果をあげていると言える。東京国立博物館「模写・模造と日本美術」展は企画力で、京都国立博物館「曾我蕭白」展は内容で、奈良国立博物館「古密教」展は学術的意義で、それぞれ優れた展覧会であった。 また、九州国立博物館が地域性を活かし、地域の活性化に寄与したことは高く評価する。今後とも持続的な企画を期待する。 <b>【より良い事業とするための意見等】</b> 地域性を含めて、広報に力を入れる必要がある。 作品キャプションの一部に、不的確な記述があったことは、厳重に注意したい。
東京国立博物館				A		
京都国立博物館				A		
奈良国立博物館				A		
九州国立博物館				A		
入場者数等	A	B	C	実績		
東京国立博物館						



世界遺産博物館島	130,000人以上	91,000人以上 130,000人未満	91,000人未満	337,475人	A
「模写・模造と日本美術 - うつす・まなぶ・つたえる - 」	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	104,786人	A
「遣唐使と唐の美術」	80,000人以上	56,000人以上 80,000人未満	56,000人未満	99,812人	A
「華麗なる伊万里、雅の京焼」	70,000人以上	49,000人以上 70,000人未満	49,000人未満	95,090人	A
「北斎展」	130,000人以上	91,000人以上 130,000人未満	91,000人未満	332,939人	A
「書の至宝 - 日本と中国 - 」	90,000人以上	63,000人以上 90,000人未満	63,000人未満	185,334人	A
「天台宗開宗1200年記念最澄と天台の国宝」	-	-	-	15,245人	-
「西川寧書法芸術展」(海外交流展)	-	-	-	約4万人	-
「19世紀万国博覧会における日本美術」(海外交流展)	-	-	-	46,679人	-
京都国立博物館					
「曾我蕭白 - 無頼という愉悦 - 」	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	45,964人	B
「竜馬の翔けた時代」	30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	49,830人	A
「天台宗開宗1200年記念最澄と天台の国宝」	50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	82,637人	A
「18世紀京都画壇の革新者たち」	-	-	-	約7万人	-
奈良国立博物館					
「曙光の時代 - ドイツで開催した日本考古展 - 」	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	30,080人	A
「古密教 - 日本密教の胎動」	15,000人以上	10,500人以上 15,000人未満	10,500人未満	32,250人	A
「遣唐使と唐の美術」	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	21,196人	A
「金沢文庫の名宝」・「公慶上人」	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	16,204人	A

	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>「第57回正倉院展」</td> <td>135,000人以上</td> <td>94,500人以上 135,000人未満</td> <td>94,500人未満</td> <td>234,391人</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>「美の国 日本」</td> <td>60,000人以上</td> <td>42,000人以上 60,000人未満</td> <td>42,000人未満</td> <td>441,938人</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>「中国 美の十字路」</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>241,273人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>地方巡回展の入館者数（12年度の実績）実施館：東京国立博物館、奈良国立博物館</td> <td>11,206人以上</td> <td>7,844人以上 11,206人未満</td> <td>7,844人未満</td> <td>26,235人</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>	「第57回正倉院展」	135,000人以上	94,500人以上 135,000人未満	94,500人未満	234,391人	A	九州国立博物館						「美の国 日本」	60,000人以上	42,000人以上 60,000人未満	42,000人未満	441,938人	A	「中国 美の十字路」	-	-	-	241,273人	-	地方巡回展の入館者数（12年度の実績）実施館：東京国立博物館、奈良国立博物館	11,206人以上	7,844人以上 11,206人未満	7,844人未満	26,235人	A																																																	
「第57回正倉院展」	135,000人以上	94,500人以上 135,000人未満	94,500人未満	234,391人	A																																																																											
九州国立博物館																																																																																
「美の国 日本」	60,000人以上	42,000人以上 60,000人未満	42,000人未満	441,938人	A																																																																											
「中国 美の十字路」	-	-	-	241,273人	-																																																																											
地方巡回展の入館者数（12年度の実績）実施館：東京国立博物館、奈良国立博物館	11,206人以上	7,844人以上 11,206人未満	7,844人未満	26,235人	A																																																																											
<p>(2)-1 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。</p> <p>(2)-2 国立博物館及び公私立博物館が所蔵する考古資料を相互に貸借し、歴史的・考古学的に体系的・通史的な展覧会を実施する。（年間5件程度）</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>貸与・特別観覧の状況</td> <td colspan="4">法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。（A～C）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>貸与の状況</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>1,140件以上</td> <td>798件以上 1,140件未満</td> <td>798件未満</td> <td>1,337件</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>200件以上</td> <td>140件以上200件未満</td> <td>140件未満</td> <td>230件</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>130件以上</td> <td>91件以上130件未満</td> <td>91件未満</td> <td>147件</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>特別観覧の件数</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>2,000件以上</td> <td>1,400件以上 2,000件未満</td> <td>1,400件未満</td> <td>156件</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>500件以上</td> <td>350件以上 500件未満</td> <td>350件未満</td> <td>843件</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>400件以上</td> <td>280件以上 400件未満</td> <td>280件未満</td> <td>1,296件</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>	貸与・特別観覧の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。（A～C）					東京国立博物館					A	京都国立博物館					A	奈良国立博物館					A	九州国立博物館					A	貸与の状況	A	B	C	実績		東京国立博物館	1,140件以上	798件以上 1,140件未満	798件未満	1,337件	A	京都国立博物館	200件以上	140件以上200件未満	140件未満	230件	A	奈良国立博物館	130件以上	91件以上130件未満	91件未満	147件	A	特別観覧の件数	A	B	C	実績		東京国立博物館	2,000件以上	1,400件以上 2,000件未満	1,400件未満	156件	C	京都国立博物館	500件以上	350件以上 500件未満	350件未満	843件	A	奈良国立博物館	400件以上	280件以上 400件未満	280件未満	1,296件	A	<p>中期計画に基づき順調な成果をあげている。 【より良い事業とするための意見等】 貸与については、引き続き自館の展覧会計画を勘案しつつ、要望に可能な限り応えていくことが望まれる。 特別観覧に関し、研究調査上の使用について特別な配慮が望まれる。</p>
貸与・特別観覧の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。（A～C）																																																																															
東京国立博物館					A																																																																											
京都国立博物館					A																																																																											
奈良国立博物館					A																																																																											
九州国立博物館					A																																																																											
貸与の状況	A	B	C	実績																																																																												
東京国立博物館	1,140件以上	798件以上 1,140件未満	798件未満	1,337件	A																																																																											
京都国立博物館	200件以上	140件以上200件未満	140件未満	230件	A																																																																											
奈良国立博物館	130件以上	91件以上130件未満	91件未満	147件	A																																																																											
特別観覧の件数	A	B	C	実績																																																																												
東京国立博物館	2,000件以上	1,400件以上 2,000件未満	1,400件未満	156件	C																																																																											
京都国立博物館	500件以上	350件以上 500件未満	350件未満	843件	A																																																																											
奈良国立博物館	400件以上	280件以上 400件未満	280件未満	1,296件	A																																																																											
<p>3 調査研究</p> <p>(1)-1 調査研究が収集・保管・修理・展示、教育普及その他の博物館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる各館の方針に従い、調査研究を積極的に実施する。 （東京国立博物館）</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>調査研究の状況</td> <td colspan="4">法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。（A～C）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>	調査研究の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。（A～C）					東京国立博物館					A	京都国立博物館					A	奈良国立博物館					A	<p>中期計画に従い、各館とも着実に成果をあげたことを評価する。客員研究員・海外研究員を含めて、交流・交換・共同作業を推進していることは特に評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 研究成果の公表については、早急に対応すべきである。また、科学研究費等の外部資金獲得については、法人全体で検討し、新たな方策を</p>																																																						
調査研究の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。（A～C）																																																																															
東京国立博物館					A																																																																											
京都国立博物館					A																																																																											
奈良国立博物館					A																																																																											

検討する必要がある。

<p>日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域の文化財の調査研究を実施する。</p> <p>法隆寺献納宝物に関する調査研究を実施する。長期的な修理計画を策定するためのX線、赤外線写真等光学的データのデジタル画像処理システムの開発を行い、将来的に文化財保存カルテ等作成に利用できるデータベースの構築を目指す。館所蔵模写模本類による原品復元に関する調査研究を行う。</p> <p><b>(京都国立博物館)</b> 京都文化を中心にした文化財の調査研究を計画的に実施する。 神と仏の思想的交流と造形に関する調査研究を実施する。修復文化財に関する調査研究を実施する。</p> <p><b>(奈良国立博物館)</b> 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施する。仏教美術写真収集及びその調査研究を行う。</p> <p><b>(九州国立博物館)</b> 日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究を実施する。文化財の科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究を実施する。</p> <p>(1)-2 国内外の博物館・美術館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、文化財の収集等の博物館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネット等を活用して広く情報を発信し、博物館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	九州国立博物館				A	
	客員研究員等招聘人数	A	B	C	実績	
	東京国立博物館	14人以上	10人以上14人未満	10人未満	14人	A
	京都国立博物館	5人以上	4人	4人未満	5人	A
	奈良国立博物館	3人以上	2人	2人未満	4人	A
	九州国立博物館	2人以上	1人	0人	2人	A
	海外研究者招聘人数	A	B	C	実績	
	東京国立博物館	10人以上	7人以上10人未満	7人未満	13人	A
	京都国立博物館	5人以上	4人以上5人未満	4人未満	7人	A
	奈良国立博物館	6人以上	4人以上6人未満	4人未満	10人	A
	九州国立博物館	2人以上	1人	0人	4人	A
	外国人研究員・研修生の受け入れ	A	B	C	実績	
	東京国立博物館	2人以上	1人	0人	1人	B
	研究員派遣	A	B	C	実績	
	東京国立博物館	2人以上	1人	0人	6人	A
京都国立博物館	2人以上	1人	0人	18人	A	
奈良国立博物館	4人以上	3人	3人未満	13人	A	
九州国立博物館	2人以上	1人	0人	40人	A	
調査研究の成果の発信	A	B	C	実績		
東京国立博物館（研究誌「MUSEUM」の刊行）	6回以上	4回以上6回未満	4回未満	6回	A	

4 教育普及

(1)-1 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

(1)-2 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。

(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、図版目録、展覧会目録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを

博物館に関する情報の収集及び公開の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A~C)				
東京国立博物館					A
京都国立博物館					A
奈良国立博物館					A
九州国立博物館					A

広報活動・デジタル化については、中期計画に基づき一定の成果を挙げている。特に収蔵品を活かした解説目的の絵本の刊行など、九州国立博物館の取組は優れていると言える。

**【より良い事業とするための意見等】**  
活動内容に関する広報活動やデジタル化については引き続き積極的に取り組む必要がある。特に各館所蔵図書のN I I・webcatへの連携を早急に実現してほしい。

<p>利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立博物館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、文化財情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。 また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	情報及び資料の収集	A	B	C	実績	
	東京国立博物館	3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	5,432件	A
	京都国立博物館	5,000件以上	3,500件以上 5,000件未満	3,500件未満	5,595件	A
	奈良国立博物館	3,000件以上	2,100件以上 3,000件未満	2,100件未満	9,118件	A
	九州国立博物館	100件以上	70件以上100件未満	70件未満	3,248件	A
	出版件数	A	B	C	実績	
	東京国立博物館	6回以上	4回以上6回未満	4回未満	6回	A
	京都国立博物館	4回以上	3回	3回未満	4回	A
	奈良国立博物館	4回以上	3回	3回未満	4回	A
	デジタル化件数	A	B	C	実績	
	東京国立博物館 (画像)	20,000枚以上	14,000枚以上 20,000枚未満	14,000枚未満	20,566枚	A
	東京国立博物館 (文字)	3,500,000字以上	2,450,000字以上 3,500,000字未満	2,450,000字未満	6,957,789字	A
	京都国立博物館	2,500件以上	1,750件以上 2,500件未満	1,750件未満	5,568件	A
	奈良国立博物館	5,000件以上	3,500件以上 5,000件未満	3,500件未満	3,755件	B
	九州国立博物館	50件以上	35件以上50件未満	35件未満	1,890件	A
	ホームページのアクセス 件数(12年度実績)	A	B	C	実績	
	東京国立博物館	783,320件	548,324件以上 783,320件未満	548,324件未満	2,923,564件	A
	京都国立博物館	248,304件	173,813件以上 248,304件未満	173,813件未満	572,936件	A
	奈良国立博物館	180,000件以上	126,000件以上 180,000件未満	126,000件未満	986,133件	A
	(2)-1 次に掲げる各館の方針に従い、新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした文化財解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、文化財等への理解の促進、学習意欲	講座・講習会等の実施状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A~C)			
東京国立博物館					A	<p>各館での教育普及活動は高く評価できる。具体的なプログラム・出版・広報活動も年々充実してきているが、参加者の少ないことが残念である。 【より良い事業とするための意見等】 各館の努力は認めるが、法人全体としての教</p>
京都国立博物館					A	

の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

**(東京国立博物館)**

児童生徒を対象とした文化普及事業及び文化財とのふれあい事業を実施し、教育普及の推進を図る。中・高校生を対象とした総合学習としての職場体験学習及び大学等を対象としたインターンシップの受入れを実施する。

**(京都国立博物館)**

小中学生学習プログラム等について検討、実施する。

**(奈良国立博物館)**

親と子の文化財教室を実施し、児童生徒に対する教育普及の促進を図る。修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成、解説等について検討、実施する。

**(九州国立博物館)**

ミュージアム体験事業を実施し、児童生徒に対する教育普及の推進を図る。

(3)-1 文化財に関する情報について正しく後世に伝えるとともに、その理解を深めるような講演会、講座及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。

それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

(3)-2 友の会活動を通じて、文化財に接する機会を増やし、より充実した学習の場を提供する。

(3)-3 美術図書等の閲覧施設を研究者中心から一般へと利用の拡大を図り、生涯学習の場とする。

奈良国立博物館					A
九州国立博物館					A
東京国立博物館	A	B	C	実績	
こどもミュージアム、ワークショップ等	582人以上	407人以上 582人未満	407人未満	114,302人	A
子供向け美術鑑賞講座	6回以上	4回以上6回未満	4回未満	9回	A
子供向け美術体験学習	6回以上	4回以上6回未満	4回未満	106回	A
月例講演会等					
回数	年12回以上	8回以上12回未満	8回未満	13回	A
人数	165人以上(1回開催)	116人以上165人未満	116人未満	3,092人	A
アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	80%	A
記念講演会					
回数	年7回以上	5回以上7回未満	5回未満	10回	A
人数	3,151人以上	2,206人以上 3,151人未満	2,206人未満	3,136人	B
アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	86%	A
夏期講座(連続講座)					
回数	3日	2日	2日未満	3日	A
人数	337人以上	236人以上337人未満	236人未満	354人	A
アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	84%	A
公開講座					
回数	3テーマ8回以上	6回以上8回未満	6回未満	4テーマ10回	A
アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	87%	A
列品解説					
回数	年40回以上	28回以上40回未満	28回未満	41回	A
人数	2,648人以上	1,854人以上 2,648人未満	1,854人未満	3,286人	A
京都国立博物館	A	B	C	実績	

育面における指針が確立されていない。学習の場としての機能を検討し、更なる向上を望む。

博物館ディクショナリ	7,500部以上	5,250部以上 7,500部未満	5,250部未満	36,000部	A
土曜講座					
回数	年46回以上	32回以上46回未満	32回未満	44回	B
人数	3,908人以上	2,736人以上 3,908人未満	2,736人未満	4,975人	A
アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	87%	A
夏期講座					
回数	3日以上	2日	2日未満	3日	A
人数	133人以上(3日間)	93人以上133人未満	93人未満	184人	A
アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	91%	A
奈良国立博物館	A	B	C	実績	
親と子の文化財教室	300人以上(全8回)	210人以上300人未満	210人未満	64人	C
特別展等講座					
回数	年9回以上	6回以上9回未満	6回未満	19回	A
人数	1,000人以上	700人以上1,000人未満	700人未満	2,947人	A
アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	82%	A
夏季講座					
回数	3日以上	2日	2日未満	3日	A
人数	120人以上	84人以上120人未満	84人未満	434人	A
アンケート	80%以上	56%以上80%未満	56%未満	83%	A
ギャラリートーク					
回数	年15回以上	11回以上15回未満	11回未満	16回	A
人数	500人以上 (14回開催)	350人以上 500人未満	350人未満	692人	A
九州国立博物館	A	B	C	実績	
開館記念講演及びシンポジウム					
回数	-	-	-	4回	-
人数	-	-	-	1,350人	-

	特別展記念講演会					
	回数	-	-	-	2回	-
	人数	-	-	-	550人	-
	特別展連絡講座					
	回数	-	-	-	全4回	-
	人数	-	-	-	計595人	-
	アンケート	-	-	-	第4回	-
	ミュージアム講座					
	回数	-	-	-	全3回	-
	人数	-	-	-	計349人	-
	アンケート	-	-	-	第3回	-
	ミュージアムトーク					
	回数	-	-	-	66回	-
	人数	-	-	-	2,411人	-
(4)-1 博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 (4)-2 全国の公私立博物館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。 (4)-3 公私立博物館・美術館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。 (4)-4 公私立博物館・美術館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。 (4)-5 大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、文化財に関する実習等について検討、実施する。	研修等の取り組み状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)				
	東京国立博物館					A
	京都国立博物館					A
	奈良国立博物館					A
	九州国立博物館					A
	東京国立博物館	A	B	C	実績	
	博物館実習	1回以上	-	0回	1回	A
	インターンシップ	1回以上	-	0回	1回	A
	ボランティアの受入人数	90人以上	63人以上90人未満	63人未満	210人	A
	京都国立博物館	A	B	C	実績	
	ボランティアの受入人数	16人以上	11人以上16人未満	11人未満	23人	A
	奈良国立博物館	A	B	C	実績	
	博物館実習	50人以上	35人以上50人未満	35人未満	49人	B
						インターンシップ、ボランティアの受入、各種の講座など多くの企画が成果をあげており、目標を達成していると言える。 【より良い事業とするための意見等】 各館の取組は評価するが、法人としての基本的なビジョンを明確にすべきである。ナショナルセンターとしての博物館業務になじむものは何か、また国立の施設として取り組むべき課題は何か、更に議論すべきである。

	放送大学の面接授業						
	回数	2回	1回	0回	4回	A	
	人数	150名以上	105名以上150名未満	105名未満	各170名	A	
	ボランティアの受入人数	99人以上	69人以上99人未満	69人未満	99人	A	
	ボランティアに対する研修	8回以上	6回以上8回未満	6回未満	38回	A	
	九州国立博物館	A	B	C	実績		
	インターンシップ	2人以上	1人	0人	6人	A	
(6)-2 企業との連携等、国立博物館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討する。	渉外活動の状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)					地元地域との連携やコンサート等のイベントについては、努力は認めるが、いまだ充分とは言えない。 【より良い事業とするための意見等】 地域との連携という点では、特に企業から支援を得るための取組が不十分である。企業は一般の利用者へとつながる窓口であり、企業の支援無しでは、今後の経営は困難と思われるため、支援を得るための対策委員会を設置するなどの措置が必要である。 また、マスコミ等との共催を前提としない場合の渉外活動の具体的方針を構築する必要がある。
	東京国立博物館					B	
	京都国立博物館					B	
	奈良国立博物館					B	
	九州国立博物館					A	
6 その他の入館者サービス (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。 (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。 (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。 (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。 (2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な博物館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる博物館となるよう努力する。 (3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。	その他の入館者サービスの状況	法人が提出する自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。(A～C)					インターネットでの資料公開、高齢者・障害者対策、施設改修、開館時間延長などの入館者サービスについては、多くの成果が認められる。 【より良い事業とするための意見等】 平常展入館料の値上げについては、十分な検討が必要である。社会的批判の対象となったと 言うてよい。 行政的サービス・学術的サービス・民間の企業サービスを充分検討する必要がある。
	東京国立博物館					A	
	京都国立博物館					A	
	奈良国立博物館					A	
	九州国立博物館					A	